

■小松均 孤高の大家。

こまつひとし

教科書疑獄・1902＝ 山形県亀井田村深堀で、曹洞宗延命寺住職で絵画の才能を持った小松梅勇の子に生まれる。母すい。
日比谷公園・1903＝ 1歳：父が急逝したため、母とともに、白鳥村の母の生家に身を寄せ、

アヲチ創刊・1908＝ 6歳：白鳥小学校に入学。

韓国併合・・・1910＝ 8歳：先生との別れを悲しみ、絵に描く。

大逆事件判決1911＝ 9歳：この頃、母が東根町の佐藤栄次郎と再婚し、離別。

大正政変・・・1913＝11歳：父の十一回忌法要のため、母子で延命寺へ行く。

第一次大戦始1914＝12歳：卒業し、富並尋常高等小学校に入学。

21ヶ条要求・1915＝13歳：担任の先生の影響で、木彫りを始め、

民本主義・・・1916＝14歳：菅原道真の絵を描き、仏像と烏天狗を作り、地元の神社に祀られる。卒業。この頃、家の板戸に馬の絵を

本格政党内閣1918＝16歳：白鳥村を出、川崎市で洋服屋の小僧となり、のちに神田の本店に移る。市村座の看板を見て画学生にあこ

大暴落・・・1920＝18歳：下駄屋を逃げ出し、再上京。新聞配達のかたわら、画家を志し川端画学校に入り、岡村葵園に学ぶ。諸新

聞支局を転々とし各種内職しながら、国学院や図書館で勉学。画学校の画友藤井茂樹の影響を受ける。

原敬首相暗殺1921＝19歳：

水平社結成・1922＝20歳：徴兵検査で帰郷、第二乙で兵役免れる。

関東大震災・1923＝21歳：関東大震災でたった一軒焼け残った東京日日新聞専売店に戻ると、

護憲三派圧勝1924＝22歳：勧誘が面白いように成功、絵絹を張ってはじめて絵を描き、早くも中央美術展に「嫁して行く村の乙女」初

治安維持法・1925＝23歳：誘惑されて結婚するも全く合わず、長女誕生。京都に逃げ出し、土田麦僊の塾に入る。その紹介で内貴清

兵衛の援助を受始める一方、東山洋画研究所に学び、宮本三郎らと知合い、藤田信政の絵に興味をもつ。

日中戦争始1937＝35歳：長女を預けようとして、魅力知った大原に住み始める。*国展に「秋林」「夕月」出品、国画賞。

金融恐慌・・・1927＝25歳：国展に「花」。この間、長女養育のこともあって、国枝と同棲し始め、

共産党事件・1928＝26歳：国展に記念碑的作品「八瀬」を出品するも、国画の日本画部解散となり、甲斐荘楠音らと(新樹社)結成し、

世界恐慌・・・1929＝27歳：技量示す桃山風「秋野」出品。帝展に「溪流」初入選し好評。清兵衛に促され、水墨画を試み始める。

海軍軍縮条約1930＝28歳：道子と正式離婚。「芭」「孕んだ女の臥像」出品。院展に「もや」初入選。帝展に「くぬ本林」特選となる。

滿州事変・・・1931＝29歳：院展で「鯨」入選。

五一五事件・1932＝30歳：院展で「秋の山路」入選。

帝人疑獄事件1934＝32歳：福田豊四郎らの(美術人社)同人を経て、豊四郎らと(新日本画研究会)を結成。院展で「緑陰」入選するが、

帝展にも出品する節操の無さを指摘され、またスランプに陥り、以後、公募展出品を中止。

芥川直木賞始1935＝33歳：日本海岸を津軽まで北上後、名古屋へ赴き、満州へわたるも惨憺たる結果。同人展には出品を続け、

二二六事件・1936＝34歳：名古屋丸善で個展開催。土田麦僊が死去して衝撃。内貴清兵衛の紹介で横山大観・小林古径に会う。

日中戦争始1937＝35歳：小川手銭・小杉放庵らと(墨人会倶楽部)結成し、のちの主題ほとんどを含む多数の作品を出品。

健保+総動員1938＝36歳：傷病兵慰問で中国を巡り、銀座三越で「小松均中支スケッチ展」。「金毘羅山図」ほか、諸展に出品。

第二次大戦始1939＝37歳：矢野橋村らと(乾坤社)結成。諸展に出品するうち、院展に「淡雪」出品、日本美術院院友に推挙され復活。

岡村葵園が死去、遺作引き継いで完成させる。豊四郎らと(山南会)結成。

大政翼賛会・1940＝38歳：引き続き諸展に出品。内貴清兵衛が「くぬ本林」を京都美術館に寄贈。入江波光らによる法隆寺金堂壁画模

写事業が始まったのに刺激され、仏画の大作制作を志す。「杉の雪」「伊豆岩山風景」以後傑作続き、

戦時下、大原に母が来て同居するなか、院展に「牡丹」「黒牡丹」を出品して地位を確立、

敗戦・・・1945＝43歳：富山に疎開し、敗戦を迎える。この間、立山の磨崖仏と出会う。

新憲法公布・1946＝44歳：院展に新作「牡丹」出品し、日本美術院賞受賞、日本美術院同人に推挙される。

新憲法施行・1947＝45歳：以後、毎年院展に出品し続けるものの、逃避的になり、

極東裁判・1948＝46歳：母が大原で死去。

独立回復・・・1951＝49歳：神奈川県柿生に土地を求め、

メデー事件・1952＝50歳：柿生から新宿に裸婦写生に通う。

55年体制始・1955＝53歳：院展「即現婦女身」。

国連加盟・・・1956＝54歳：神奈川県柿生から京都大原へ戻るように駆け落ち。

イタリヤ・・・1958＝56歳：日本現代美術オーストラリア・ニュージーランド巡回展に出品。

美智子妃・・・1959＝57歳：日本国際美術展「岩山の月」以降、岩壁や岩山の連山を画面一杯に描く独自の世界を開き始め、

安保闘争・・・1960＝58歳：「不動尊(青)」を描き始める。

タイタイ病始・1961＝59歳：院展に際物的作品「藤間美新踊る」。日本美術院評議員となる。

全国総合計画1962＝60歳：院展に幻想的作品「白昼夢」。

大学紛争始・1965＝63歳：院展に大原の絵集大成となる「吾が窓より(夏山)」出品して文部大臣賞受賞に至り、大家として完全復活。

いざなぎ景気1966＝64歳：院展「戸隠の春」。第1回甲辰会展を主催し京都府ギャラリーで開催。以後、毎年開催。

美濃部都知事1967＝65歳：「じゃがいも」。

霞ヶ関ビル・1968＝66歳：院展「裏六甲蓬菜峡全図」。郷里の山形美術博物館で「小松均画業展」開催。最上川を描く決心。「おのれの子

小松均作品集」出版。

全共闘・・・1969＝67歳：山形美術博物館で開催された院展に招待され、最上川流域を廻る。院展に大作「最上川(三ヶ瀬・鍋巻・は

やぶさ)」出品し、最上川大連作始まる。

大阪万博・・・1970＝68歳：ふるさとのために「月山大権現」とのぼりに書く。赤倉温泉の旅館に年一・二回の息抜き宿泊始まる。

ドルショック・・・1971＝69歳：「おのれの子 神と己の子 小松素描画集」出版。

沖縄返還・・・1972＝70歳：「大岩不動(墨)」「三十六童子」を描く。

石油ショック1973＝71歳：大阪で毎日新聞社主催「画業五十年記念小松均展」、以後展覧会続く。富士を巡り、写生。院展に連作頂点「

最上川難所(三ヶ瀬・基点)」出品。NHKラジオ第一「くわと画筆」放送。「吾が家への道」を描く。

院展に「富士」出品し、以後連作。山種美術館第一回現代日本画の10人展に出品。東京ギャラリーヤエスで「

自選小松均個展」。大阪高島屋で「小松均新作発表展」。

クアランゴール事件1975＝73歳：「小松均展」大阪そごうで開催。「傑作「吾が窓より 大原新雪」。最上川連作に対して芸術選奨文部大臣賞。

田中角栄逮捕1976＝74歳：「アサヒギャラリー」で「小松均全特集」。富士山とふたたび対峙。

JALハイジャック・1977＝75歳：院展「富士山」。京都府美術工芸功労者。富士山へ。肺炎かまわず最上川にも。三都で「小松均新作展」。

成田衝突・・・1978＝76歳：富士山へ。院展「赤富士」。東京・京都で「大自然の魂ををえがく孤高の画仙小松均展」。

革新大敗北・1979＝77歳：山形県大石田町名誉町民となる。院展出品の「雪の最上川」で総理大臣賞受賞。

貿易摩擦問題1980＝78歳：院展「豊茂富士」。山形・仙台で「大自然の魂を描く孤高の画仙-小松均展」。「小松均画集」出版。

・・・1981＝79歳：高知県立郷土文化会館で「小松均展」。

中曽根内閣・1982＝80歳：院展「白富士図」。滑川で「小松均展」。小松均墨絵教室を開く。

デイトラフト・1983＝81歳：第一回墨絵教室展。神戸・新潟・仙台で「画業65年記念小松均展」。

バブル始・・・1986＝84歳：東京で「自然への感応・15年の足跡小松均展」。文化功労者。

リクルート事件・1988＝86歳：京都市美術館で再回顧展「小松均展」が開かれ、その後、全国巡回するなかにも、創作を続けていたが、

昭和天皇没・1989＝87歳：発熱し、没した。「京洛四季(絶筆)。院展に「裾野の牛」(遺作)出品。

田中日佐夫「画人小松均の生涯」,